

■平知盛 武将, 公卿。源氏一斉蜂起を迎えた平家軍統率の中心で、「平家物語」では尚武剛勇の武将の典型に。

たいらのとももり

頼長内覧・・1151＝ 生。_平清盛の4男, 母は平時子。同腹の兄に宗盛, 弟に重衡, 妹に建礼門院徳子がある。

保元の乱・・1156＝ 5歳：

平治の乱・・1159＝ 8歳：蔵人・従五位下となり,
・・・・・1160＝ **9歳**：武蔵守に任ぜられる。以後, 8年間この任にあり, 守を止めてからは子息たちを守に任じて, みずからは知行主として武蔵国務の沙汰権を継続, 掌握したらしい。そのため同国における知盛の権限は1時的な経済的収益権や形式的な支配権だけにとどまらず, 在地武士把握の方向にまで向かったものと思われる。事実, 熊谷直実なども知盛の家人となっている。武蔵国は知盛にとって東国における拠点となったのである。ひいてはそれが平氏政権の東国支配にとっても重要な意味をもったといえる。武蔵の国務沙汰を続ける一方, 中央での官位もしだいに上昇する。
・・・・・1163＝11歳：左兵衛権佐。
・・・・・1164＝12歳：従五位上。
源頼政内昇殿1166＝14歳：正五位下, 春宮大進兼中務権大輔。
清盛太政大臣1167＝15歳：従四位下。武蔵国から帰京。
厳島神社・・1168＝16歳：従四位上から正四位下となり, 左近衛権中將に転任。
後白河出家・1169＝**18歳**：
平氏一門のなかで最も清盛に近く, 最も強い発言権をもったのは, その室平時子であったと思われる。したがって時子を母とする宗盛・知盛・重衡の3兄弟はおのずから中心的立場に立つようになり,

鹿ヶ谷事件・1177＝26歳：***従三位**となり公卿に列した。清盛の嫡子重盛が病没してからは, 宗盛が完全に嫡流の地位を得ることとなった。この宗盛が文官として一門の総帥的役割を果たしたのに対し, 弟の知盛は尚武の気質が強く, 武官として軍事的統率の重責を担ったといえる。
・・・・・1178＝**27歳**：左中將・近江権守,
治承のクーデタ 1179＝28歳：正三位, 右兵衛督から左兵衛督へ。丹波権守をへて,
源氏一斉蜂起1180＝29歳：春宮大夫・新院御厩別当となる。***治承・寿永の内乱期**に入ると知盛はつねに追討軍の中心として奮闘しなければならず, 以仁王・源三位頼政の挙兵鎮圧, 富士川の敗戦後,
平清盛没・・1181＝30歳：***征夷大將軍**として左中將平清経・小松少将平有盛ら3万余騎をもって, 源行家を尾張洲俣・美濃板倉の合戦で破る。その功により参議・従二位権中納言にすすんだ。清盛の亡きあとはこの宗盛・知盛が文武の2本柱となって一門を率いたのである。追討大將軍である知盛は病を得ていったん帰洛しなければならなかった。そのかわりに派遣されたのが弟の重衡で, 幸い尾張墨俣川に源軍を撃破することができた。
・・・・・1182＝30歳：権中納言, 従一位となったが, 平氏の衰勢はこの一戦の勝利のみで立ち直るようなものではなく,
後鳥羽天皇・1183＝32歳：_**源義仲の上洛に際して栗津で戦ったが敗れ, ついに平氏一門とともに西海へ都落ちをしなければならなかった。讃岐の屋島を本拠地として山陽・南海両道と瀬戸内海に勢力圏をくり上げ, 源義仲の派遣した足利義清を備中水島の合戦で, また源行家を播磨室山の合戦で破った。**
・・・・・1184＝32歳：_一ノ谷合戦で子の知章を失うが, 頽勢挽回のため, 当時一門の本拠となっていた讃岐屋島を離れ, 長門彦島にいま一つの根拠地を築き門司関を固めた。
平氏滅亡・・1185＝34歳：***壇ノ浦で源義経に敗北し, 安徳天皇をはじめ二位尼・建礼門院など一門の女官に入水をすすめ, 自らも郎等・乳母子の伊賀家長とともに入水した。**